

■ グループ紹介

財団法人 石油産業活性化センター

石油は、自動車、航空機、船舶、工業用加熱炉、発電設備、家庭用暖房等の各種燃料、潤滑油、さらには石油化学原料として各方面で幅広く使われており、石油なくして現代の生活は考えられないほどになっている。

この重要な石油を低廉且つ安定的に供給する使命を持つ我が国石油産業に関し、技術開発や構造改善等により活性化を促進する中核的機関として、昭和61年5月に当センターが設立された。英文名をPetroleum Energy Center, 略してPECという。

設立以来10年になるが、この間、各事業は賛助会員及び資源エネルギー庁のご支援、ご協力を得て、着実に成果をあげつつ拡充してきている。東京の虎ノ門に本部があるほか、千葉市に石油基盤技術研究所、清水市にバイオ精製研究室、川崎市に高機能触媒研究室、サウジアラビアのリヤド市に中東事務所がある。これらは直轄の施設であるが、このほか、技術開発事業に参加している各企業から研究室の提供を受けており、その数は100以上にもなる。

賛助会員は、石油会社のほか、機械、電機、化学、エンジニアリング、シンクタンク、金融機関等多岐にわたり、平成8年3月末現在で124法人（他に特別賛助会員が2法人）、事業規模は平成8年度で約300億円である。

事業を大別すると次の6事業になる。

1. 技術開発事業

当センターの事業のなかでもっとも規模が大きい。これまで各種の研究開発を行ってきたが、例をあげると、ディーゼルを主体としたコージェネの研究、燃料電池関連の研究、燃焼の研究、脱硫及び分解触媒の研究、宇宙航空用複合材料の研究、AIの研究、自動車用セラミックガスタービンの研究、炭素材料の研究、バイオ利用技術の研究、多環芳香族の研究、製油所環境負荷の低減研究、製油所情報システムの研究等がある。



写1 石油基盤技術研究所

る。また、石油基盤技術研究所では、自動車の排出ガス対策を目的とした燃料の研究等を行っている。

2. 調査研究事業

将来の技術開発の芽を育てるための新技術シーズに関する調査研究等、石油産業の技術開発の基盤整備に関する調査をはじめとして、石油トータルエネルギーシステムの普及促進に関する調査、保安・環境に関する調査、新世代型製油所に関する調査、石油産業の経営効率化等に関する調査、石油の海外情報に関する調査、石油製品の流通効率化に関する調査等、数多くの調査を行っている。

3. 国際協力事業

我が国と産油国との関係を長期にわたり安定的かつ強固にするためには、石油分野における人的交流や技術面における協力が重要である。このため、産油国との間に高機能触媒やバイオ脱硫に関する共同研究、石油に関する情報交流を行っているほか、産油国の水利用効率の向上調査、緑化及び土壌の改良調査等、産業基盤の向上に資する調査を行っている。また、中東産油国以外でも、中国、タイ、EU、メキシコ等と研究協力をを行っている。



写2 サウジアラビアにおける高機能触媒セミナー

4. メタノール等液体燃料化事業

自動車用メタノールに関する実験研究として、メタノール自動車の走行テスト、燃料仕様の研究、排ガスの測定法及び最適燃焼技術の研究等を行っている。また、液体燃料転換に関する調査研究として、天然ガス

等の非液体燃料を液体燃料に転換する触媒及びプロセスに関する研究開発と調査、石炭液化油のアップグレードの研究等を行っている。

5. 緊急時対応情報システム事業

海外からの石油供給の途絶等の緊急時に対応するため、コンピューターを利用して石油の物流データを一元的に把握する情報ネットワークシステムを構築し、運営・管理を行っている。また、年に数回、短期的なテストランも行っている。

6. 支援事業

石油設備の高度化、情報化等のための資金の借入に関し、利子の一部補給を行っている。

所在地：〒106 東京都港区虎ノ門4-3-9

住友新虎ノ門ビル

(文責：石油情報プラザ所長 金子安雄)

